

関西電力株式会社

取締役代表執行役社長 森本 孝 殿

2021年5月14日

《オール福井反原発連絡会》

.....
原子力発電に反対する福井県民会議
福井から原発を止める裁判の会
サヨナラ原発福井ネットワーク
原発住民運動福井・嶺南センター
原発問題住民運動福井連絡会
.....

事務局 林 広員 (090-8263-6104)

老朽（40年超）原発、美浜3号機、高浜1、2号機に関する申し入れ

4月27日、杉本達治県知事と貴殿との面談で、知事は、「10年間止まっていたものを動かすことに大丈夫かとの疑義もあった」との県議会の議論を紹介。その上で貴殿に、「仮に再稼働する場合は、一つひとつの手順を丁寧かつ慎重に行ってほしい」と要請した。また、知事は、「サイトの中で新型コロナ感染の発生、または広がったことが最近もあった」と指摘し、「新型コロナ感染対策の徹底を」と要望した。

これに対し貴殿は、「再稼働時の点検に関しては、40年を超える運転、約10年停止しているプラントであることから、通常の定期検査では行わないこととして、技術系社員、協力会社、メーカーが自ら保守担当してきた設備を原子炉起動前に総点検する」と回答した。また、コロナ感染対策としては、「発電所で複数の感染者が発生した場合でも、あらかじめ余裕を持った要員を確保しており、安全管理に支障がない体制をとっている」と強調した。

老朽原発の再稼働はわが国では初めてであり、新規規制基準に基づく安全対策工事の完了後の再稼働も同様に初めてである。安全対策工事に携わった技術者からは、安全性に関する疑念の声も上がっている。県原子力安全専門委員会でも、田島俊彦委員から「高経年化原子炉は危険ではないか」などの意見があった。しかも、コロナ禍での再稼働であり、その安全性確認については特別の注意が必要である。よって、以下の点について申し入れる。

また、この申し入れについては、その重要性を考慮し5月28日までに文書で回答することを求める。

<申し入れ項目>

1 老朽原発の再稼働に際し総点検をするとのことだが、何人の人員で、どの箇所の点検を、どのような点検方法で、いつまでに実施するのかを明らかにするとともに、総点検の結果に

についても情報開示をすること。

さらに、住民に対して丁寧に説明する説明会を開催すること。

2 コロナ禍の再稼働についての一番の心配は、過酷事故などの緊急時に、3 交替で勤務する中央制御室の要員を含む運転員や、電気・機械・計測・炉物理など専門技術職員の中でコロナウイルス感染によるクラスターが発生した場合、原子炉を安全に冷却し放射能の拡散を防止できるかである。クラスターの発生と過酷事故が同時に発生した場合、対応は不可能との専門家の指摘もある。よって、貴殿が「体制をとっている」とされる内容について、第三者の検証が必要であり、情報の開示とともに、住民に対して丁寧に説明すること。

3 県原子力安全専門委の田島委員は、「水蒸気爆発は起きないというが、ハッキリと断言できる対策ができているとは私は思えない」「冷却水の喪失から事故が起きる。高経年化した炉は原子炉に直結した一次系配管などは、ほとんど取り替えない。いろいろな点検をして、安全だからそのまま使うという。しかし、分からない危険性あるかもしれない」と疑念を述べている。

このように、原子炉の安全性に関し、原子炉圧力容器など重要機器や配管について、その健全性に疑念が生じている。そのため、原子炉の監視試験片の破壊検査と炉母体の非破壊検査の元（生）データなどを公開し、第三者による客観的検証が必要だが、規制委員会ですら確認していない。よって、疑念払拭のためにも関電が自ら、それらデータの情報を全て公開すること。

4 3月28日付け滋賀民報に、美浜原発3号機の燃料取替用水タンクの竜巻対策のための鉄骨建屋の柱と梁（はり）の溶接工事に携わった吉本選氏の「あまりにもずさんな工事だった」との告発記事が掲載された。その記事によれば、吉本氏は「鉄骨建屋の設計が悪く、柱と梁の溶接ができません。さらに、母材（部材）は長い間、野ざらしでひどく錆びていた」と告発した。同氏は、工事を請け負った若狭町の建設会社の社長に、「見た目だけ溶接することはできるが強度が出ない。根本的にやり直すべき」と忠告しても「くっついていさえすればいい」と無視されたという。安全対策工事に関する重要な告発であり、貴殿は、これに関する全ての情報を公開すること。

以上